

『林業経済』編集委員会 (50 音順)

山本 伸幸 (編集委員長) 興梠 克久 (副委員長) 原 研二 (副委員長)
 石崎 涼子 市川 隆史 小川三四郎 柴崎 茂光 関岡 東生 関 良基
 竹本 太郎 立花 敏 寺内 大左 早瀬 悟史 三木 敦朗 山本 美穂
 事務局
 土屋 俊幸 (所長) 大西 純 (事務員)

『林業経済』第 77 巻審査担当者〔編集委員以外〕(50 音順)

相川 高信 泉 桂子 伊藤 幸男 岡 裕泰 梶 光一 久保山裕史
 芳賀 和樹 林 雅秀 早船 真智 丸山 美季 脇野 博

《編集後記》

のっけから私事で恐縮だが、私は 1985 年から 10 年間、北海道札幌市でかけ出しの研究員をやっていた。その研究所の室長 2 人 (造林系と経営系) が中心になって、部横断的に若手に声をかけて、全道の国有林、道有林の広葉樹施業試験地をめぐるツアーをやってくれたことがある。ツアーでは、それぞれの試験地で担当者から説明を受け、林内に分け入っていろいろ検討したのだから、滔々と議論する先輩方を羨望の眼差しで見ているのを思い出す。しかし、その頃でも、道内の広葉樹資源はあらかた伐り尽くされていて、もうまともな広葉樹は試験地にしか残っていないなあと思っていた。

実は、ほぼ同時期に当時同じ研究室におられた故柳幸さんと苫小牧圏の広葉樹製材工場の聞き取り調査を行っていて、その成果を林学会道支部で

報告しているのだが、そこでも道産広葉樹の供給減少から多樹種化、外材化が報告されており、その経営は相当厳しいものだった。

それから 30 数年が経ち、こういうポジティブなシンポジウム (本号掲載) を広葉樹について聞くことができるとは、当時の私にはまったく想像ができなかった。国内外の広葉樹資源をめぐる状況はさらに格段に悪化しているのだが、討論の最後に報告者の一人嶋瀬さんがおっしゃっていたように、「出すほうも、使うほうも、強い危機感を持ちながら、自分たちでできることを一つ一つきちんとやってきた結果」として、国産広葉樹材の活用の可能性が大きく進展したことは、単に林業・林産業の話としてだけでなく、日本の産業のあり方に明るい方向性を感じさせるものだったと思う。(土屋)

研究所業務日誌 (2025 年 2 月)

2 月 3 日	森林整備保全事業推進調査第 2 回検討委員会 (於日本森林技術協会)	2 月 28 日	森林所有者による「森林サービス産業」推進事業 座談会 (於汐留ビジネスフォーラム)
2 月 10 日	第 6 回編集委員会		
2 月 21 日	『林業経済』2 月号校了		
2 月 27 日	森林所有者による「森林サービス産業」推進事業 合同シンポジウム (於汐留ビジネスフォーラム)		

林業経済 (月刊)

(禁無断転載)

定価 880 円
 (本体価格 800 円)

編集発行人 永田 信

発行所 一般財団法人 林業経済研究所

〒 113-0034 東京都文京区湯島 1-12-6 高関ビル 3A

電 話 03-6379-5015 FAX 03-6379-3210

E-mail : office@foeri.org URL : <http://www.foeri.org/>

☆本誌は予約購読を原則とします。購読ご希望の方は直接、当研究所までお申し込みください。

1 年 10,560 円 (送料共) (本体 9,600 円、消費税 960 円)

学生および院生は 1 年 5,500 円 (本体 5,000 円、消費税 500 円) になります。

購読料の振込先

口座名義人：一般財団法人 林業経済研究所

銀行の場合：三菱 UFJ 銀行 秋葉原支店

普通預金口座 4560904

郵便局の場合：振替口座 00110-1-147629

印刷 株式会社ソウブン・ドットコム 東京都荒川区西尾久 7-12-16